

高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画PT修復班（絵画担当）

○高松塚古墳壁画

1) 壁画の状態確認

修理時に材料を追加した場所、あるいは仮設修理施設においてクリーニング作業（紫外線照射、酵素による処置等）を施した場所を中心に、修理後の状況について定期的に確認を行っている。7月、11月に状態確認を行った。目視観察とともに測色も行い現時点では色味の変化はなかった。4ヶ月程度後にも確認予定である。

2) 集中メンテナンス作業の状況確認

5月、8月、10月（実施）、1月（予定）

表面の塵埃が確認されるため、塵埃を避ける方法の検討が必要である。

3) 壁画の修理作業に関する各種データ整理と報告書準備

報告書の刊行に向け、これまでの資料の整理を行い、目録化を遂行している。

○キトラ古墳壁画

1) 壁画の集中メンテナンス

6月、8月、11月（実施）、2月（予定）

2) 十二支像「辰」「巳」「申」の現状と今後の課題

現状は強化などの処置をしないまま、表面を小判のレーヨン紙をヒドロキシプロピルセルロース（HPC）で二層重ねて保護した上で乾燥させ、その上に楮紙を小麦デンプン糊で接着させて安定化している。この状態の漆喰片の上下を、緩衝材と通気性を確保したパンチングボード（穴を空けた透明プラスチック板）で支え、軽い重りで押さえて反り返りなどの歪みが生じないように形態安定をはかった状態で保管中である（図1、写真1～3参照）。安全な調査などを行う環境を確保するため、現在、国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設内で保管している。

現在のところ、状態は安定しており変化は確認されていないが、今後のあり方を検討するうえでも材料調査班と連携して、まずは図像の情報を得ていきたい。

現在、四神の館で保存管理されている再構成された壁画の当該箇所は、写真をはめこんで、入れ替えが可能なように施工されている（写真5～7）。

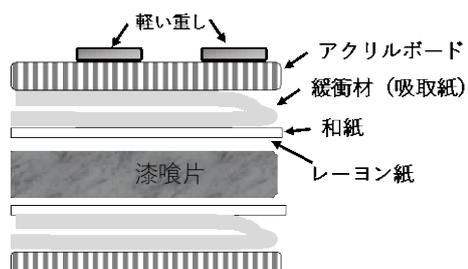


図1 現状の断面模式図



写真1 「辰」の現状保管状況

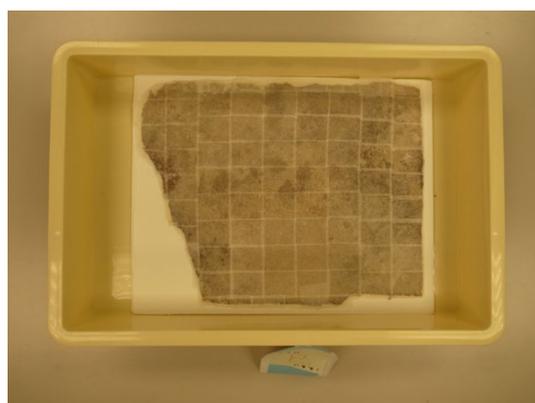


写真2 「巳」の現状保管状況



写真3 「申」の現状保管状況

3) 十二支像「午」の現状と今後の課題

現状は、取り出してきたままの状態を保持する目的で、脱酸素剤、保湿用の蒸留水とともにガスバリア袋(エスカル)に二重封入して保管されている(図2、写真4)。適宜開封して加湿後に再封入を行いつつ、現在まで維持されてきた。

しかし、前回の検討会で報告したように、同封に使用してきた脱酸素剤からの酸性物質の発生が指摘されている。測定結果からは、同封している水を含ませたメラミンスポンジ部分が酸性物質を吸着していると考えられ、漆喰への影響がすぐに危惧される状況ではないが、今後の保管状況については、この観点からも検討が望ましい。しかし、急激な乾燥などによる土の亀裂発生などの懸念もあるため、処置に関しては、今後、さまざまな観点から試験を行って検討する必要がある。

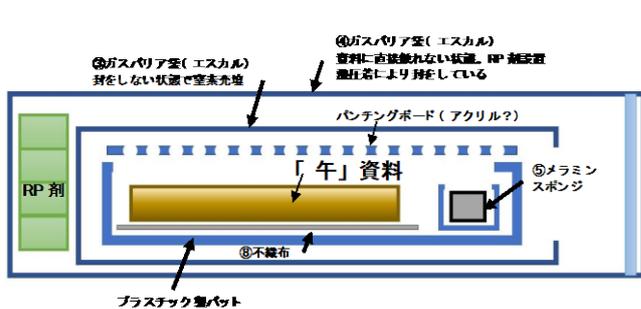


図2 「午」保管模式図



写真4 平成22年取り出し直後の「午」



写真5 再構成後の東壁（「辰」該当箇所は写真をはめこみ）



写真6 再構成後の西壁（「申」該当箇所は写真をはめこみ）



写真7 再構成後の南壁（「巳」該当箇所は写真をはめこみ）